

## ☆ ペット同行避難の受け入れ体制の整備について考える

**前提**：避難してくる住民等の中には、必ずペットと「同行避難\*」してくる人が含まれます

用語解説 \*同行避難：人と動物の双方の被害を避けるために動物を連れて行く避難行動のこと

\*同伴避難：同行避難した動物とともに一定の期間避難生活を送ること

### ① 避難所でのペット対策 ≡ 同行避難者への準備

#### Q. 同行避難の受け入れは必要か？

A. 飼養者だけでなく、被災社会全体が安心安全に避難するために同行避難が広く推奨される

⇒同行避難しないと …避難をためらう/ 置き去りにする/ 危険な中を世話に戻る/ 野に放つ

#### Q. なぜ対策が必要か？

A. 適切に準備と管理がされないと、動物にまつわるトラブルが発生する恐れがある

⇒過去に報告されている具体例

・糞尿悪臭 ・無駄吠えの騒音 ・被毛の飛び散り ・アレルギー体質への不安

### ② 地域の状況を把握する

- ・ 学区内の飼育状況 参考)畜犬登録 市内合計:約6000頭
- ・ ほかの避難所の状況
- ・ 受入対象動物 犬・猫・小鳥・小動物

(今回の課題) 動物はどこへ？

### ③ 予測して検討する (スペース・条件・飼育ルール)

#### 1. ペット受入スペースを考える … 見取り図や航空写真を参考にして

(受入場所の条件)

	<b>居住場所と区別</b>	人間と動物で、動線も含め適度な距離で分離する
	人間の立場から	動物の「騒音、悪臭、衛生面」を考慮する
	動物の立場から	風雨を避けられる、逸走/盗難防止、動物種で分別
	受入場所の被災	浸水・損壊時の代替地も考える
	車中避難	動物には適すが人の健康に不適

(その他) 補助犬の扱い … 様々な場所への「同伴」に便宜

動物のケガや病気 … 管理者を通じて最寄りの動物病院が対応

#### 2. 受入条件と飼育ルールを考える… 世話はすべて「飼主責任」です

- ・受入条件
  - ・対象動物 ・受入れ数 ・受入不可の条件 → 管理者が判断\*
  - ・受入→動物情報の収集(個体識別と飼主情報の明示)
- ・飼育ルール
  - ・飼主会発足 … 飼主同士の共助を推進 ⇒ 個々の負担軽減
  - ・ペットの世話… 給餌・無駄吠え対応・糞尿や抜毛対策・周辺清掃

#### \*「避難所管理者・運営者」となる方へ

- ・ 人に危害を与える可能性のある状態の動物に対しては「管理者」が判断する ⇒在宅避難を勧める
- ・ 諸事情で同行動物の滞在が不可能な場合、一旦安全な場所に待機させる ⇒代替移動先を提案する



**飼育スペースの検討(屋外) 「飼育小屋」が最適 各小学校で整備済 (注)南小・竹小には無い**

人の居住に向かなくても、風雨がしのげてペット飼育に活用可能な場所がある

- 例) 駐輪場、グラウンドの一角、渡り廊下、物置や車庫、建物の軒下、ごみ集積場の跡地
- サッカーゴール、渡り廊下、遊具や鉄棒、フェンス、キャンプ用のミニテント

**飼育スペースの検討(屋内) 混乱が落ち着いてから使用する**

✓避難者の動線と交わらない場所 ✓鳴き声や臭いが届きにくい場所 ✓飼主の目が届く場所

- 例) 居住区画にならない1室、裏口の風除室、階段下や踊り場

・・・ペットスペース:ブルーシート敷きで養生した指定場所でケージ飼育が原則